

会議の概要

会議名称	令和7年度 第2回能代市活力ある高齢化推進委員会
開催日時	令和8年3月9日(月) 午後6時45分～
開催場所	能代市役所 会議室9・10
出席委員 (14名)	委員長 瀬川大輔 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 渡邊耕佑 (介護保険の被保険者) 委員 秋林信郎 (介護保険の被保険者) 委員 成田弘子 (介護保険の被保険者) 委員 原田かほる (介護保険の被保険者) 委員 大越 聡 (介護保険の被保険者) 委員 袴田光樹 (介護サービス及び介護予防サービスの事業者) リモート出席 委員 飯坂正美 (介護サービス及び介護予防サービスの事業者) 委員 村岡紘和 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 渡部昌子 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 田口和義 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 土崎博之 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 山本真紀子 (地域における保健・医療・福祉関係者) 委員 小林詠子 (地域における保健・医療・福祉関係者) (欠席) 安部副委員長、千葉俊彦委員、小林一成委員
事務局	市民福祉部 次長 畠山 徹 市民福祉課 課長 渡部 敬 長寿いきがい課 参事 野呂田則子 長寿いきがい課 課長補佐 藤田広樹 長寿いきがい課 課長補佐 大高雅人 長寿いきがい課 主査 小山内千栄 長寿いきがい課 主査 大久保明子 長寿いきがい課 主任 七尾恵輔 長寿いきがい課 主事 平川遥煌 本庁地域包括支援センター 管理者 三浦睦 北地域包括支援センター 管理者 浜野さおり 南地域包括支援センター 看護師 田村久美子 (欠席) ニツ井地域包括支援センター
次第	開会 委員長挨拶 案件 (1) 能代市地域包括支援センターの運営協議について (2) その他 ・能代市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定に向けて ・能代市介護サービス事業経営戦略の改定について ・能代市生活支援ハウスについて その他 閉会

1 開会

2 委員長挨拶

3 案件

(1) 能代市地域包括支援センターの運営協議について

発言者	質疑内容
委員	民生委員の会議において、来年度のテーマを「繋がり」とした。寺子が残っている地区もあり、そこに地域包括支援センターも参加して健康体操をしていただいた。感謝している。地域包括支援センターの心や情熱を感じてありがたかった。本委員会の資料は情報量があるが、今後どう活かしていくのか期待したい。
委員	2点伺いたい。①相談方法について、メールでの相談件数は。また相談内容は。②事業内容について、認知症のタッチパネルとは何か。
事務局	①メールとしての集計開始が令和6年度からであるため、令和5年度には数値がない。
包括	初めの相談を電話で受けた後、相談者が仕事の都合上、電話に出られないこともあるため、メールの方が確認しやすいといった理由である。主に遠方の親族であり、親御さんの状態の確認等である。

事務局	②タッチパネルは「もの忘れ相談プログラム」というもので、平成27年ころから導入した。もの忘れが心配な方に、タッチパネルでセルフチェックができるものである。各地域包括支援センターに1台ずつ、また長寿いきがい課にもあり、事業等で活用している。
委員	ケアマネジャーへの支援について、様々な研修テーマを設定し実施されているが、講師の方は地域包括支援センターの方が務めているのか。
事務局	地域包括支援センターで各1回実施しており、講師は外部の先生などに依頼している。
委員	各包括支援センターでの地域ケア個別会議の内容について、具体例が分かれば教えていただきたい。
事務局	各種事例の紹介であるが、主に認知症関係や生活費等である。

(2) その他

- ・ 能代市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定に向けて
質疑等なし
- ・ 能代市介護サービス事業経営戦略の改定について
質疑等なし
- ・ 能代市生活支援ハウスについて
質疑等なし

4 その他

発言者	質疑内容
委員	地域包括支援センターから高齢者世帯の除雪について話題があったが、ある地域ではお互いに助け合って除雪をしている。別の地域では人が居なくて助け合えないところもある。新任民生委員から、「高齢者から雪よせの依頼があったが、何度もとなると対応できないがどうしたらいいか」と相談があった。現行制度で紹介できるのはシルバー券と雪んこレンジャーであるが、今冬のような雪の降り方では対応は困難。市長寿いきがい課に確認したところ、市と自治会が契約締結することで、自治会による除雪もシルバー券を使用可能であると伺った。良い取組であるが、自治会長にはあまり知られていないようだ。自治会やその他の組織との横の連絡を密にしていきたい。
事務局	自分たちの地域での自助共助で除雪の対応が出来ていることは素晴らしいことである。今後は、大雪の傾向が強まっていくのではと予想されるが、市からお金などのインセンティブを付与する等で、地域力の向上を図る取り組みが今後のポイントのひとつと考えている。ただ自治会会員の高齢化などで地域での対応が難しいところもあるため、現行制度を組み合わせながら取り組んで行ければと思っている。市としても現状にとどまらず、何かできることがないかを常に考えていかなくてはならない。今年度は任意のグループや企業から協力をいただき、シルバー券や雪んこレンジャーの登録者も多かった。ご指摘の周知の仕方については対応を検討したい。
委員	要介護認定について、当病院でも申請が必要な方の家族から相談を受けているが、数年前から市役所を訪れて相談した際、改めて地域包括支援センターを通してから申請するようにとされる事例があった。せっかく市役所に申請に伺っているので、いったん申請を受けてから地域包括支援センターにつないだ方が良いと考えるが。
事務局	要介護認定の際は、申請書類作成の際に色々なことをお伺いする。よくわからない状況で来られる方もいらっしゃるので、一度確認をしていただくことはある。また、状況を伺うと軽度で、介護サービスをすぐに利用したい方ではなく、将来の為に申請した方がいいと思われている方もおり、ケースに合わせて地域包括支援センターに紹介しているため、状況をみて判断している。
委員	県外自治体のローカルルールでは市役所では認定申請の受付をしておらず、地域包括支援センターを通して申請を行うのがルールとなっている。遠方から来ても申請できなかった等というケースもあるので、能代市でも話し合って体制を決めていただけたら。
事務局	ご相談された方にご不便をおかけしないよう対応したい。
委員	病院から要介護認定申請を勧めることについては問題ないか。
事務局	問題ない。